
前立腺肥大症に対して経尿道的前立腺吊り上げ術 (PUL) による
新しい低侵襲治療法についての初期経験

福井勝也, 馬場雅人, 濱口卓也

社会医療法人祐生会 みどりヶ丘病院泌尿器科

経尿道的前立腺吊り上げ術 (prostatic urethral lift : PUL) は、前立腺肥大症 (BPH) に関連した排尿が困難な患者に適応した低侵襲手術である。PUL は、日本では 2022 年 4 月から保険適用されている。PUL は、膀胱鏡下で経尿道的に配置されたインプラントを使用して前立腺部尿道を機械的に開き、尿道閉塞を軽減する治療法である。前立腺組織の切開、加熱、切除が不要な治療法のため性機能を温存できると期待されている。

【対象】前立腺肥大症に対する治療として、当院で 2022 年 12 月から施行した PUL の短期的な結果を報告する。

【方法】当院入院中に排尿ケアチームに排尿困難のために依頼があった尿閉・不完全尿閉の患者 4 名に対して PUL を施行した。内服していた抗凝固薬または抗血小板薬は、全例で内服を継続したまま全身麻酔にて施行した。評価は、①尿道カテーテルフリーにされたか②排尿後残尿量 (PVR) で行った。

【結果】年齢の中央値は 81.5(74-85) 歳。全例で抗凝固薬または抗血小板薬を服用しており、全例で BPH の術前薬を服用していた。前立腺サイズの平均値は 34.5(30-40)g、FIM (機能的自立度評価法) では 53.5 (28-66) 点 (FIM 運動項目 : 平均 26.5 点、FIM 認知項目 : 平均 27 点)、米国麻酔科学会 (ASA) のクラスは、全例でクラス 3 であった。手術時間の平均値は 21.5(13-31) 分で、使用したインプラント数は平均 3.5 本であった。術中合併症はほとんど認めなかった。術後、全例で尿道カテーテルフリーとなり、術後 1 か月後の PVR 平均値は 53.25 (8-69) ml であった。術後の合併症で、持続膀胱洗浄で対応可能な血尿を 1 例認めた。

【結論】PUL は、重度の全身性疾患をもつ尿閉歴がある高齢男性の尿道カテーテルフリーに貢献できる可能性がある。